

梅素堂魚(世)

ひんぎやう

備書・意匠家、俳人。文化十四年江戸生れ、

明治十二年二月七日没(八二七—八〇)。通稱宮城喜三郎。別號呂成、小

井居、整軒、梅素亭と魚、楓園、榕堂、水仙子、玉符子、蛸野子等。

父貞雄は岸本由良流門下の歌人。壯年の頃より書畫の板下いたかの妙を得、

合巻神史の鉄扉を手に掛けて、そのへ製巧の美備みびと着各拍掌めづらして奇めづらききに

驚けりへ。「粹輿奇人傳」)。またへ近來府下の書畫の版下衣類の模

様或は新形の「風」筆頭の自在と劬の「好事の眼台」驚かこ、雷名遠

近の震ひ、書肆樂鋪劇場花柳の重寶と稱されし備書家の巨擘こへ(假名

垣魯文)とありん。備書に於ける門下の勘亭流の達者武田文來がゐる。

俳諧は貞享で梅の啓び、のち宇村抱謙に就いた。